

岩手日報 掲載で県内外から大きな反響が!

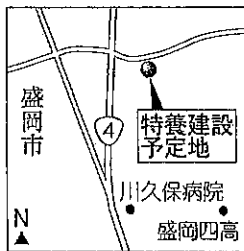
新たな特養市民の力で

盛岡の 寄付募り法人設立へ

盛岡市の市民団体特別養護老人ホームをつくる会(会長・渥美建三川久保病院名誉院長)は、新しい特別養護老人ホーム(特養)の開設を目指し、寄付を募っている。事務局の盛岡医療生協によると、募金による特養開設は全国でも珍しく、2018年3月の開設を目指す。特養の入所待機者が問題となる中、受け皿を市民の力でつくる新たな協力体制が生まれそうだ。



特別養護老人ホームをつくる会が2018年3月の開設を目指す施設のイメージ(同会提供)



整備を目指すのは、入所定員90人、短期入所定員10人の3階建て施設。盛岡市南仙北3丁目の建設予定地から約300坪の同病院と連携して医師1人と看護師4人が常駐し、介護職員53人の雇用を目指す。

募金の達成目標は1億9千万円。現在7千万円集まっており、設置主体となる社会福祉法人の設立や土地取得の資金の一部とする。募金のほか福祉医療機構の融資と市補助も活用し、総事業費約20億円で建設する。

同会は、入所待機者らの声を受け、渥美会長や小野寺けい子前盛岡医療生協理事長らが呼び掛け人となって11年7月に発足。特養の整備計画は今年7月、同市の第6期(15、17年度)介護保険事業計画に選定された。

県内の早期に入所が必要な入所待機者は15年4月1日時点で958人。例年1千人前後で推移しており、施設整備が追いつかないペースで需要が伸びている。

渥美会長は「圧倒的に施設が少ない。所得

の低い人を積極的に受け入れたい」と語る。社会福祉法人設立後は保育所や障害者支援施設などの整備や、介護士の奨学金制度設立なども検討しており、募金活動を通じて支え合いのネットワークを構築していく考えだ。

寄付や同会入会の問題は問い合わせは同生協本部(019-635-6216)へ。入所申し込みはまだ受け付けていない。

※岩手日報 2015年12月21日付

「宮古市、釜石市、大船渡市などの沿岸市町村、県北、県南の各市町村など全県から寄付が届いています。

岩手日報で報道されたこともあり、特養建設の取り組みが大きな反響を呼んでいます。岩手日報のホームページを見た東京の方からも問い合わせや、大阪、埼玉に住んでいる方からの寄付もありました♪。

